

2026.1  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とくやく 富薬

1号

第48卷  
No.438



キンセンカ *Calendula officinalis* L. (キク科 Compositae)



**生 薬** キンセンカ（金盞花） 花弁を採取し、速やかに陰乾する。

**成 分** サボニン :calendasaponin A,B,C,D、フラボノイド :narcissin,rutin、カロチノイド :flavoxanthin,luteoxanthin、精油 : $\alpha$ -cadinol,  $\delta$ -cadinen,  $\gamma$ -cadinene 等。

**効 能** 利尿、発汗、瀉下、止血、胆汁分泌促進、通経の作用があり、月経不順や消化不良に用いる。皮膚の炎症、湿疹、打ち身、水虫、火傷、切り傷および目薬として結膜炎などに浸出液を外用、また染料として使われる。

生薬 キンセンカ（金盞花）

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## ○○表紙について○○



1月の北陸では一面雪に覆われ白の世界を連想しますが、南房総のお花畠ではストック (*Matthiola incana*) やポピー (*Papaver rhoeas*)、キンギョソウ (*Antirrhinum majus*)、キンセンカなどのカラフルな花々を青い海を眺めながら花摘みができます。中でもキンセンカは鮮やかな黄色やオレンジ色で径10cmほどの壺状の花を、分枝した各茎頂に咲かせます。金壺花の名について李時珍 (1518–1593) は「金壺とはその花の形容だ」と言っています。因みに属学名の *Calendula* は「月の初めの日」を意味し、月初めには必ず咲いていることからつけられた名で、カレンダーの語源にもなっています。英名のポットマリーゴールド (pot marigold) は英国に *C. officinalis*

が移入 (13–14世紀) されたころは耐寒性に劣るためか、希少なためか、鉢植えで育てられたことより名付けられたという説や、葉や花を「kitchen herb (in the pot)」として用いたからなど諸説あるようです。強健で耐寒性にも優れている *C. arvensis* (ホンキンセンカ) の field marigold と区別するためとも言われています。しかし、現在マリーゴールドと呼ばれている植物は新大陸発見後16世紀にスペインに導入され、その後アフリカ北部に広がったメキシコ原産のタゲテス属 (*Tagetes*) 植物を呼ぶことが多く、混乱しています。

南ヨーロッパ (地中海沿岸) 原産の1年生草本で、草丈は原種に近い品種で30cm、切り花用の高性品種で60–70cm程です。葉は互生、披針形～広橢円形で、葉縁は全縁もしくは細かい鋸歯があります。花はキク科に共通の複合花で、頭花は中央に管状花を、周囲に舌状花を配します。花径は原種系の一重のもので5cmと小型ですが、園芸品種の多くは10cm程度の大輪で、15cmの巨大輪品種もあります。果実は、一つの頭花に、3種類の異なる形態が存在する極めて珍しい特徴を持っています。

同属植物にホンキンセンカ (本金壺花 *C. arvensis*) があります。キンセンカ (別名トウキンセンカ) と同名であったこと、より古くから渡来していた植物であったことなどから牧野富太郎博士が名付けました。欧州中部～南部原産の1年または越年草で草丈30–50cm。株全体に短い毛があり、葉は披針形、花は黄色で、直径2cmとやや小さい。日本には1597年に渡来し栽培されたと伝えられていますが、江戸後期にトウキンセンカが移入されるとその地位も名も取って変わられました。『多識編』(1612) に「金壺花、今案ずるに比米加左加豆岐、俗に金壺花と称す」とあるのはホンキンセンカのことと考えられます。『大和本草』(1709) にも「金壺花 キンセン花なり。花金紅色、八月に子をまきて臘月より花ひらき、春尤盛なり」とあり、ホンキンセンカの別名のフユシラズ (冬不知) の名と一致します。同時期の園芸書『花壇地錦抄』(1695) や『花譜』(1698) にも観賞用として同様のことが記されています。

トウキンセンカが日本に渡来したした時期には諸説あるようです。オランダの医師シーポルト (1796–1866) の集めた腊葉標本の一部が牧野標本館所蔵の標本として「キンセンクワ *Calendula officinalis* L.」と同定され残っていることから19世紀前半には渡来し、栽培されていた証拠とされています。毛利梅園 (1798–1851) の『梅園草木花譜』の金壺花の図は明らかにトウキンセンカそのもので、実物を写生したものとしか考えられません。『草木図説』(1856–1861) においては「キンセンクハ 金壺草」の項に「第一種 *Calendula arvensis* カレンデュラ・アルヘンシス」、「大葉キンセンクハ」の項に「第二種 *Calendula officinalis* カレンデュラ・ヲツヒシナリス」とトウキンセンカが載っています。

(村上守一 記)